保健室

湖西市立新居小学校

養護教諭　山田　智子

新居町は、平成22年3月23日、浜名郡から湖西市に編入合併し、それに伴い本校も湖西市立新居小学校となり3年が過ぎました。静岡県の西南部、浜名湖西岸に位置し、江戸時代には東海道五十三次の宿場町として栄え、学区には日本四大関所に数えられる新居関所跡があります。その関所が取り持つ縁で、福島関所のある長野県木曽郡木曽町との交歓会が年2回開かれており、5年生の冬には木曽町で福島関所跡を見学したりスキーを楽しんだりしています。次年度の夏には、木曽町の6年生を迎え、海水浴や新居町伝統の手筒花火を楽しみながら友情を育んでいます。

本校は、全校児童958名、特別支援学級2学級を含む31学級の大規模校です。全職員が家庭や地域と連携しながら、1年間のストーリーを意識し、長い目で子どもを育てることを目標に「さくら～つくる～」「あじさい～高める～」「ひまわり～鍛える～」「いちょう～深める～」「ざざんか～あらわす・つなげる～」の5ステージで、学校目標の『力いっぱい　夢いっぱい』～めあてに向かってやりぬく子～の育成に取り組んでいます。

保健室では、規則正しい生活はすべての活力の基盤と考え、『健康生活チェック』を行っています。これは、親子で生活を見直すと共に、児童が一番直したいことについて、具体的で実行可能な生活目標を考え、実践することをねらいとしています。健康生活チェックから本校の児童の健康問題として、TV・ゲーム・パソコンの時間が決められていないため、長時間ゲームをやったり、TVを見てしまったりする児童が、5割いるという実態があげられました。そこで、保健室からは、毎月設定されている『健康の日』に、学級担任が発達段階に合わせた基本的な生活習慣の指導をするための資料提供をしていく生徒には、具体的な状況確認に加え、個別に声掛けをしています。体調不良で保健室に来室する生徒に対しては、朝食と睡眠時間について必ず確認します。養護教諭複数体制を生かし、十分な問診、個別の保健指導を心がけています。さらに、ほけんだよりを通して家庭へも啓発し、家庭と協力しながら基本的生活習慣の徹底に取り組んでいます。基本的な生活習慣をこの時期に身に付けることは、生徒が充実した学校生活を送ることはもとより、一生の健康づくりにつながっていくことだと考えています。

生徒の自己肯定感を高めるための実践として、浜松市東区の学校保健部で取り組んでいる「心の日」の活動があります。月に1回「心の日」を設定し、本校では朝活動の時間に、心に抱える家庭が増えてきています。そのため、養護教諭の果たす役割もここ数年で大きく変化してきていると感じます。今後も、養護教諭ならではの視点を大切にした保健室からの的確な情報発信を心がけたいと考えています。そのためにも全職員と心を合わせながら、家庭・地域と連携して、宝物である児童一人一人に寄り添い、見守り育むことのできる養護教諭でありたいと思っています。

（平成25年3月31日現在）

浜松市立与進中学校

養護教諭　大橋なぎさ

浜松市東区に位置する本校は、生徒数636名、学級数19学級の大規模校です。与進という名前には、「ともに進む」「前進しようとする人を支援する」という意味があります。そこで、与進中学校区の目指す子どもの姿を「自信をもってともに進む長上の子」、学校教育目標を「自分を誇りにできる生徒」とし、その実現に向け、全職員で日々教育活動に取り組んでいます。生徒は素直で人なつっこく、学校行事や部活動に一生懸命取り組んでいます。しかしその反面、基本的生活習慣が身に付いていなかったり、自己肯定感が低かったりする生徒も少なくありません。そのような実態を受け、学校保健目標を「健康の自己管理・保持増進ができる生徒の育成」「自分を好きと言える生徒の育成」とし、学校保健活動に取り組んでいます。

本校では、生徒が健康を自己管理できるように、自分自身の生活について振り返る機会を数多く設けています。毎朝学級で保体委員が、その日の体調や朝食についてチェックを行い、その結果を養護教諭が確認しています。体調不良や朝食抜きが続いて考えるプログラムを計画的に実施しています。あいさつ、ストレス、コミュニケーション、命などそれぞれのテーマに合わせて教師が語りかけを行ったり、ワークをしたりしています。小中共通のテーマで実施し、発達段階に合わせた心の成長を支援しています。「心の日」の時間は、自分自身の心と向き合うことができる貴重な時間となっています。

わたしは、養護教諭としては未熟ですが、日々成長していく生徒を近くで見守り見届けることができて、うれしく思います。これからも、職員、家庭、地域と連携しながら、生徒が心身ともに健康に過ごせるように、支援していきたいと思います。

（平成25年3月31現在）

予防医学事業推進　全国業務研修会開催

中央会　山根則幸事務局長

全国業務研修会が、公益財団法人予防医学事業中央会と当協会の共催により、２月21日、22日の両日に静岡グランドホテル中島屋（静岡市）で開催されました。全国から31支部、79名の方が参加し、活発な意見交換と情報交換が行われました。

初日は、職域保健、地域保健、学校保健の各分科会別に、７、８人のグループによる討議が行われました。職域保健分科会では、渉外活動のほか静岡支部から提出した「派遣医師に関わる人件費の高騰を抑えるための努力」などがテーマとなり、また、地域保健分科会では、受診率向上対策や新規検診・検査などについて話し合われました。さらに、学校保健分科会では水谷健康増進部長が座長となって、小児生活習慣病予防健診の実施状況や学校保健における付加価値サービスの提供などについて討議されました。

第２日目は、中央会と開催県支部の挨拶に続き、神奈川県支部の根本事業局長の進行により、「顧客サービス充実への取り組み」をテーマにパネルディスカッションが行われ、３支部のほか静岡支部からは学校保健セミナーについて伊東課長代理が、顧客カルテとアンケート調査について松下主任から報告がされました。

続く講話では、石黒副理事長から「日本寄生虫予防会の軌跡と果たした役割」と題し、中央会のルーツから現在の予防医学運動や家族計画にまで続く基本の理念についてお話いただきました。

終わりに、山根中央会理事・事務局長により「検診検査を取り巻く最近の話題」について報告がされました。

健康増進課　飯塚　　進

「若者に忍び寄る性感染症の脅威」
―第39回学校保健セミナーを浜松で初開催―

三鴨廣繁先生

当協会と静岡県学校保健会が共催する第39回学校保健セミナーを去る２月６日浜松アクトシティ浜松研修交流センター６Ｆ音楽工房ホールにおいて開催しました。

講師には、愛知医科大学病院感染症科教授の三鴨廣繁先生を迎え、かねてからより多くの養護の先生方から要望が出ていた「性感染症」について「若者に忍び寄る性感染症の脅威」と題して講演を行いました。

当日は、県内各地の学校から55名の皆さんが参加され、二時間にわたる講演を熱心に聴かれました。

性感染症の歴史から始まり、６大性感染症といわれる梅毒、エイズ、クラジミア、ヘルペス、淋菌、コンジローマの特徴・原因となる微生物・潜伏期等においてスライド写真、事例などを交えた大変わかりやすい講演は、性感染症の怖さを改めて知ることができたと思われ、その中で子供達は、大人が思っている以上に性知識に関してもいろいろなことを知っていて体験もしており、「子供は、寝ていない」など…の講演に、聴講した養護教諭・指導教諭には今後の適切な指導及び支援において大いに参考になったと思われました。